



かんがえる葦



下野市立古山小学校
校長室インフォメーション
令和3年 10月号
令和3年10月1日
発行責任者 梶原 和子

今年、9月に入ってから急に涼しくなり足早に秋が近づきました。日が落ちるのも早くなり、やや物寂しく感じる今日この頃です。季節は変わってもコロナについてはまだまだ油断はできず、これからも我慢の生活が続きます。我慢の生活は誰も同じです。だからこそ、この時期、過ごし方次第でピンチもチャンスに変えられます。本校の子どもたちもこの時期を、チャンスと捉えて今何ができるかを真剣に考え、これからの生活に生かせるようにしてほしいと願っています。児童には理科の自由研究がきっかけとなって、凄い薬を開発した人がいるということ話したことがあります。ですから、この時期に将来のことを少し真剣に考えてみるのもいいのではないのでしょうか。ノーベル賞を受賞するなど、偉業を成し遂げた人はインタビューで「人の役に立つ」ということで研究を続けたとよく話しています。これまで世の中のためになることをした人は、どのような生き方・考え方をしてきたのか参考にすることもいいでしょう。日本には「日本の十大発明家」という人たちが正式に選ばれていることをご存じでしょうか。これは、特許庁が歴史的な発明者の中から永久にその功績を讃えるにふさわしい10人を選定したものです。その十人は「豊田佐吉（織物の機会）」「御木本幸吉（養殖真珠）」「高峰譲吉（アドレナリン）」「池田菊苗（グルタミン酸ナトリウム）」「鈴木梅太郎（ビタミンB1）」「杉本京太（邦文タイプライター）」「本多光太郎（KS鋼）」「八木秀次（八木アンテナ）」「丹羽保次郎（写真伝送方式）」「三島徳七（MK磁石鋼）」です。なるほどと思う人も、あまりピンとこない人もひともいますね。でも、どの人も現在の生活の基となる大切な発明をした人たちです。近年では、青色ダイオードの発明でノーベル賞を受賞した仲村修二さんが、人生で一番大切なキーワードとして「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考えろ。」をあげておられます。先に挙げた十名も仲村さんにも共通していることは、楽に事を達成した人はいないということです。何度も挫折し諦めかけたことがあったようです。たくさんの困難を乗り越えた努力の結晶だということです。

私たちは、いろいろな壁にぶつかると、壁を乗り越えようと努力し、それでもうまくいかないときには「〇〇がないからできない」等何らかのできない理由を探し、逃げてしまうことがままあります。でも、物事を成し遂げた人は「〇〇がないからできない」ではなく、「自分のやりたいことは〇〇だ。そのためには〇〇が必要だ」という前向きな姿勢で、自分の決めた目的に立ち向かっていきました。その努力が、新しい発明につながっていったのだと思います。「目的に向かっていく努力」を自分の生活の中に位置付けていくことが、これからの一人一人の「目的に向かう道」につながっています。子どもたちの夢を育み、それを支えていくことが我々大人の使命と考えます。ご家庭におかれましても子どもたちのいろいろな頑張りをぜひ、応援してください。

とちぎっ子学習状況調査結果の概要について

- 実施日 令和3年5月27日（木） ○実施学年 4、5年
- 実施教科 国語、算数、理科
（栃木県平均正答率との比較）
- ◎ 上回っている（5ポイント以上） ○ やや上回っている（5ポイント未満）
- － 同程度（±1ポイント程度） ▽ 下回っている



<4年生>

- 【国語】教科全体◎ 基礎◎ 活用◎ 話すこと・聞くこと◎ 書くこと◎ 読むこと◎
言葉の特徴や使い方に関する事項◎ 情報の扱い方に関する事項◎ 我が国の言語文化に関する事項◎
- 【算数】教科全体◎ 基礎◎ 活用◎ 数と計算◎ 図形◎ 測定◎ データの活用◎
- 【理科】教科全体◎ 基礎◎ 活用◎ 物質・エネルギー◎ 生命・地球◎

<傾向と課題>

各教科とも大変良好な結果でした。しかしこの結果に満足せず授業はもちろんですが、計画的・継続的な自主学習の実施を各ご家庭でもお願いいたします。

○国語については、「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」「主語と述語の理解」

「様子や行動を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている」「目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている」等において、やや課題が見られました。

授業の工夫で改善できる点多々ありますが、質の良い本をたくさん読むこと、活字に触れること（例えば新聞等）を意識することでより向上が期待できますので、活字に慣れることも含め、読書の習慣を付けることが大切です。

○算数については、「小数のしくみの理解」「繰り上がり3回の計算」「波及的繰り下がりありの計算」「真分数の計算」「□を使った減法の式の理解」「はかりの目盛りの読み取り方」等にやや課題が見られました。計算関係については、ドリルを繰り返し行い計算に慣れること、□を使った式は、方程式の基礎となるので、教科書をよく読み問題をわかるようになるまで解いてみることなど行うとよいでしょう。わからないことはそのままにせず、自力解決が難しい場合は、教師に質問することも大切です。

○理科については良好な結果ではありましたが、国語や算数に比して理解の程度が若干少ないようでした。「虫めがねや方位磁針の正しい使い方」「共通点、差異点に気付く」「昆虫の完全変態、不完全変態の理解」「太陽の動きと影の位置」「伝導体と絶縁体の理解」「実験結果から事象の変化を推測すること、そしてそれを説明すること」等については再度確認することが必要です。特に実験結果の読み取りや、実験器具の目的に応じた正しい使い方、自然事象の理解については毎年苦手としている内容ですので、指導方法等見直して参ります。

<5年生>

- 【国語】教科全体◎ 基礎◎ 活用◎ 話すこと・聞くこと◎ 書くこと◎ 読むこと○
言葉の特徴や使い方に関する事項◎ 情報の扱い方に関する事項○ 我が国の言語文化に関する事項一
- 【算数】教科全体◎ 基礎◎ 活用◎ 数と計算◎ 図形○ 変化と関係◎ データの活用○
- 【理科】教科全体◎ 基礎○ 活用◎ 物質・エネルギー◎ 生命・地球◎

<傾向と課題>

各教科とも、概ね良好な結果でしたがまだまだ向上できる、向上するところがたくさん見られました。復習だけでなく予習も行い、授業の理解度を高めることが重要です。長時間勉強すればよいというわけではありません。継続した取組を集中して行うことが大切です。

○国語については、「漢字の読み」「言葉の理解」「情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える」「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える」等に課題がありました。4年生にも書きましたが、読書は国語力の向上にとっても有効です。文学小説はもちろんですが、子ども新聞等の情報誌等も含めいろいろな書籍を読み、考える習慣をつけるとよいでしょう。

○算数については、「位取り等数の相対的な大きさ」「分数、小数の計算、わり算」「分度器の目盛りの読み方」「面積を含めた図形全般」「グラフの読み方と解釈」等に課題がありました。計算については、ドリルで繰り返し行うことですが、特に分数は中学、高校の数学ではより重要なものになります。今のうちにしっかりと理解するよう、指導に注意して参ります。

○理科については、「1年間の動物のようす」「動物のからだのつくりと運動」「時間と星座の位置関係」「物体における温度と体積の変化の違い」「水の性質、状態変化全般」「物質によるあたたまり方の違い」に課題が見られました。特に水については、結露が起こる理由はもとより、融解、気化についての理解が得られていない状況でした。実験等制限はありますが、学習教材を工夫して指導して参ります。

思春期における体の変化について学習しました

オンラインで工場見学を行いました

4年生が、保健の授業で養護教諭から、思春期における男女の体の変化について教えていただきました。何となく気付いていた体の変化について、自分たちが大人の体に向かっていくことを実感し、自分を大切にしていかなければという思いが芽生えてきた様子がうかがえました。

9月14日に、3年生がオンラインでカルビー（株）清原工場の見学を行いました。本来でしたら、実際に出向いて工場見学をさせていただくものですが、今回は感染症予防のため、オンラインでの実施としました。でも、子どもたちは説明をよく聞き、質問するなど楽しく学ぶことができました。



※ 児童の活動の様子や学校行事等については、学校ホームページに掲載してしますのでぜひご覧下さい。
学校HPアドレス http://www.school.shimotsuke.ed.jp/e_school/koyama/

